

## 第36回 日独スポーツ少年団同時交流



### 派遣 士別クロスカントリースポーツ少年団 石川陽介

私は半日ギリまで行くべきかどうか悩んでいた。でも何かドイツに行くことにより変わるかもしれない、何か得ることができるとも知れないと思いつ断を下した。結論から言うと、本当に良い経験をし、視野が広がったり考えが深まったりした。さらに海外で最高の友に出会い、ドイツで最高の思い出を作ることが出来た。プランデンブルグのディスカッションでは、スポーツの制度について話し合いました。ドイツではみんなで楽しむスポーツをモットーに、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方が一緒にスポーツをするということを知りました。そしてドイツ人はスポーツをたくさんします。サイクリングやカヌー、ハイロープアスレチックなど何かひとつに頼らずどんなスポーツもやるという感じでは、それは人間性を作るためのひとつだということでした。



最後にホストファミリー、ベルリンのホストファミリーは同世代の人たちもいてたくさん遊んだり会話をしながら絆を深めることができました。そのホストファミリーのお父さんがたくさんドイツの歴史、伝統、現在の様子を教えてくださいました。

ました。子ども達とは毎日長い時間、朝起きたときから夜寝る時まで一緒にいたので、別れの時は本当に辛かったです。プランデンブルグのホストファミリーは同年代の人はいませんでしたが、本当に仲良く出来ました。あまりに何から何まで親切にしてもらい申し訳ないくらいでした。ホストファミリーの方も積極的に研修に参加してくれて本当に嬉しかった。どちらのホストファミリーでも英語やジェスチャーなどで必死に伝えあいコミュニケーションをたくさんとることが出来たことを若いうちに経験させてもらうことができ本当に感謝しています。ありがとうございました。

### 北海道スポーツ少年団の霜觸本部長が、日本派遣団の団長として参加しました。

若いということは本当に素晴らしい、まだまだ間にドイツに溶け込み若者達と親しくなりドイツ語が話せなくても気持ちを通じ合える、と団員みんなが実感した。ドイツは美しい国、人々は人情豊か、この交流でしか体験出来ない事がたくさんありました。ぜひ、みなさんも参加してください。これからの人生にプラスになりますよ。



左からエスコートのシュテファンさん、霜觸本部長、北海道ブロック担当のハヨさん（ベルリンの壁にて）

### 受入 石狩管内スポーツ少年団連絡協議会 事務局 小林 則幸

今回石狩管内での受入は8月3日午後から10日の午前まで。受入期間の行く末に不安を抱きながら待っていた関係者の前に、期待を胸に満面の笑みで現れたドイツ人を見て、とてもほっとしたのを覚えています。到着後は江別市内を散策。江別市の象徴でもあるレンガについて大変興味を持ったようで、工場見学では説明者に何度も質問する場面も見受けられ、有意義な時間を過ごすことができました。その後行なわれた歓迎会では、琴の演奏で盛り上げたり和気あいあいとゲームなどをしながら、お世話になるホームステイとの対面を果たしました。

2日目からお別れの日までは、毎朝江別市体育館に集合し、管内市町村へ移動しての日替わりメニューで交流。夕方、江別市に

戻って翌日の市町村担当者のガイダンスを受けて民泊家庭へ帰るという流れをとり、持ち物の確認や活動に対する心構えなど、スムーズにプログラムをこなすことができましたと思います。ちょっとだけエピソード…

新篠津村でそば打ち体験のこと。指導者が教えているうちに、蕎麦を練りこむときにちょっと手を添えてしまったのですが、最初から最後まで自分でやりたいと、もう一度粉の状態からそばまで上手に仕上げで大満足！ドイツの人って、日本人と似て、職人がたざというか、やりだしたら自分の気がすむまでやりとげる…というところが見えた一面でした。

最終日は支笏湖からサイクリング後、千歳でさよならパーティー。ホームステイの家族やディスカッションを行なった恵庭南高校の生徒、市町村役員が参加しドイツの面々がショートコントや踊りを披露し賑やかに時間を過ごしました。

管内のスポーツ少年団員とドイツの訪問団が、言葉は通じなくても「スポーツ」や「日本の文化の体験」を通して、気持ちが通じたと時を過ごすことができました。



管内のスポーツ少年団員とドイツの訪問団が、言葉は通じなくても「スポーツ」や「日本の文化の体験」を通して、気持ちが通じたと時を過ごすことができました。

### 事務局 便り



## 平成21年度 北海道スポーツ少年団登録概要

団数、団員数、役職員を含めた指導者のすべてにおいて昨年度より減少しました。

年度	市町村数	団数	団員数	指導者数	
				単位団	役職員
20年度	174	2,299	50,568名	9,389名	822名
21年度	173	2,255	49,289名	9,365名	816名
対前年度	△1	△44	△1,279名	△24名	△6名

※なお、(財)北海道体育協会HPに掲載しています。

**「北海道スポーツ少年団表彰」**  
毎年団員の日にスポーツ少年団が表彰を行っているのはご存知ですか。これは、10年以上にわたり地域での積極的な活動を続けている単位団や少年団の普及振興などに貢献された指導者や団体に贈られるものです。  
北海道スポーツ少年団組織が40年以上継続してきた背景には、そういった指導者や単位団の地道な取り組みが組織の広がり大きく貢献してきました。地道スポーツ少年団の育成や充実のため、さらに活躍していただくために多くの推薦をお願いします。  
(表彰資格・条件) 登録が10年を経過した者および単位団  
1号表彰…現在登録中の有資格指導者  
2号表彰…現在登録中の単位団  
3号表彰…市町村および管内協議会、役職者  
なお、詳細は(財)北海道体育協会ホームページに掲載しています。

**スポーツ振興グループ(生涯スポーツ担当)**  
課長 山口 淳一(生涯スポーツ総括)  
主事 石亀 聖祐(少年団・指導者養成全般)  
主事 鈴木津津紀(少年団事業全般)  
主事 服部 佐知(指導者養成事業)  
臨職 山田 晋子(少年団庶務全般)

**スポーツ振興グループ(競技スポーツ担当)**  
課長 米島 優二(競技スポーツ総括)  
主事 小杉 英俊(体力測定担当)  
主事 千葉 智史(団体担当)  
臨職 岳 亜希子(競技スポーツ庶務全般)

北海道スポーツ少年団広報  
Quality of Life  
Hokkaido Junior Sports Clubs Association

平成22年3月発行

発行者  
北海道スポーツ少年団本部長 霜觸 寛  
(Hokkaido Junior Sports Clubs Association)  
〒062-8572 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1  
北海道立総合体育センター内  
TEL 011-820-1706 / FAX 011-893-0705  
E-mail hokkaido@japan-sports.or.jp

**発刊に 当って**

こんにちは 北海道スポーツ少年団広報普及部会長 秋野 優です。  
今回は、全国交流大会出場への意気込みや、北海道スポーツ少年団出身のオリンピック選手のインタビュー、各種事業の報告や紹介などたくさんの記事を掲載しました。  
全道各地の団員のみならずがこの広報誌を通して少年団の活動を広く共有できるよう願うとともに、スポーツ少年団の普及と各種活動の啓蒙・啓発として、組織の拡充と登録の促進が図られるよう期待し、発刊にあたってのご挨拶といたします。

## オリンピックメダリストにインタビュー

高平 慎士さん  
(たかひら・しんじ)  
2008年北京五輪  
陸上男子400メートルリレー  
銅メダル

1984年7月18日、旭川市生まれの25歳。旭川春光小3年生から旭川春光野球少年団に入る。旭川六中から陸上に転向。旭川大高から順天堂大、実業団の富士通に入社。180センチ、62キロ。04年アテネ五輪初出場の400メートルリレーで3走を務め4位、07年世界選手権(大阪)同種目でアジア新、日本新(38秒03)で5位。08年北京五輪同種目で銅メダルの快挙を達成した。



(北海道日刊スポーツ新聞社提供)

### Q1 野球ではどんな思い出がありますか？

小学3年生のとき、友達に誘われて小学校の少年団に入りました。なかなか強いチームで、僕が小学5年生のときには全道準優勝になりました。足が速かったので打順は1番から3番あたり、ポジションはセンターや捕手、右翼、一塁などです。楽しかったですよ。

### Q2 中学では野球から陸上に代わりましたね

少年団で野球を続けながら、陸上短距離で大会に出場、5年生で全道2位、6年生で全国7位と成績も上がってきました。当時、森雅則先生(現下川中学校長=56)から「陸上やってみないか」と話しかけられました。最後は自分決め、両親に「陸上をやりたい、六中に行かして」と宣言しました。今から思うとすごい決断をそのときやったんだと、我ながら感じます。

下川中・森校長は、高平が初めて小学5年生の冬、道北陸協練習会に参加したときのことを良く覚えている。150センチくらいで走る姿が普通の子と違い、前傾が深い野球独特のクセはあったが、豊かな素質を感じた。中学3年間は、基本を中心に陸上の楽しさを教えていった。高平が今でも「競技は楽しく」をモットーとするのは、小、中学生のころ受けた野球、陸上の指導によるところが大きい。

### Q3 五輪で感じたものは何ですか

また現役で、競技生活途中文で答えを出すのは難しいです。北京五輪400メートルリレー決勝のときは、あんな幸せな空間はなかったということです。さらに驚いたのは、それが多くの人の心を動かしたという事実です。しばらくは顔を知られすぎて大変でした(笑)。競技者も観戦者も気持ち共有できるのが五輪だと思います。

### Q4 指導者の皆さんに

子供たちとの会話を大切にしてほしい。押しつけがなく、子供たちが楽しんでやれるような環境を作ってほしい。

### Q5 子供たちに

夢も目標もあきらめないで、追い続けられればいつかあります。目の前よりも将来をしっかりと描いて、1歩ずつ歩むことが大切です。親、先生、指導者への感謝の心を忘れないでね。



バレーボール

第8回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会

男子

江別中央  
ジュニアバレーボール  
スポーツ少年団(江別市)

この大会を目指して今日まで頑張ってきました。「全員全力」の合言葉で、1年の花を咲かせたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



女子

富良野小ジュニア  
スポーツ少年団(富良野市)

私達は北海道代表の富良野小ジュニアです。「笑顔・全力・チームワーク・ねばり」を目標にがんばってきました。この大会で、自分たちの最高のプレーができるようにがんばります。



全国競技別交流大会出場!!

全国大会を控えたみなさんに意気込みを聞きました。北海道代表として、元気いっぱいプレイしてください。



剣道

第32回全国スポーツ少年団剣道交流大会

個人戦男子

古川 圭太  
大曲剣道会  
スポーツ少年団  
(北広島市)



全国大会では北海道代表としての自覚を持ち、優勝を目指して頑張りたいです。

個人戦男子

山本 雄斗  
釧路剣心会  
スポーツ少年団  
(釧路市)



「渡辺先生や他の人から今まで教えてもらった事一つ一つを誇り、勝ち上がっていきたくと思います。とても楽しみにしています。」

個人戦女子

今野 結芽  
若草スポーツ少年剣道部  
スポーツ少年団  
(札幌市)



今回で中学の試合は最後なので、優勝目指して頑張りたいです。

個人戦女子

柳本 莉乃  
三石 翔武館剣道  
スポーツ少年団  
(浦河町)



「全国大会参加とても嬉しいです。毎日稽古をつけて頂いた野口先生はじめ、先輩、仲間感謝をし、この大会で沢山の事を学び帰りたいです。北海道代表として精一杯頑張ります。」

団体戦 札幌市剣道スポーツ少年団選抜A

及川 達貴  
(栄南少年剣道クラブスポーツ少年団)  
福田安穂子  
(若草スポーツ少年剣道部スポーツ少年団)  
奥村 優太  
(札幌炭戸剣道会スポーツ少年団)  
牛木麻理奈  
(若草スポーツ少年剣道部スポーツ少年団)  
鷹田 知輝  
(札幌白鳳剣道道場スポーツ少年団)



自慢のチームワークで一戦一戦大切に悔いのない試合をしたいです。

スポーツ少年団 島松ホッケー  
活動の紹介 スポーツ少年団(恵庭市)

今回は、北海道内唯一のホッケーチーム「島松ホッケースポーツ少年団」にスポットを当てました。毎年全国大会に出場し、好成績を収めているすばらしいチームです。どのような活動をしているのか興味がありますね。



島松フィールドホッケー少年団は団員(男女)15名、練習は主に体育館、夏季土曜は屋外ホッケー場で活動しています。毎年8月開催の全国大会を目指して練習しています。今年初めて札幌福移ホッケークラブ、網走少年団との交流試合があり、団員達は「試合が一番楽しい」と目を輝かせていました。全国大会に向け、練習は厳しく真剣、強化合宿もあり熱のこもった指導が行なわれます。北海道代表として誇りを持ち、悔いのないプレーし勝ち進む...それが目標であり、大きな励みとなっています。

「全国優勝」を目標に辛い練習を楽しく、ホッケーの楽しさを伝えていきたい。」と言う監督、「ホッケーの魅力は全員で心を合わせて試合ができること」「点が入った時はとてもうれしい」団員達はホッケーを楽しみ、そして厳しく優しい指導者たちをとても慕っています。年間を通して「全国」という一つの目標に向かって進み続けられるのは指導者の熱意、保護者の協力、皆が一致団結した活動を支えてくれるおかげです。心一つに活動を続ける少年団です。



第47回 全国スポーツ少年大会 8月1日~4日

全国大会に参加して

今年度は、群馬県国立赤城青少年自然の家において開催されました。参加した団員たちは、緊張した顔で集まった団員達も活動を重ねるにつれ緊張もほぐれ、最終日には全国の仲間たちと別れを惜しんでいました。大会中は、文化学習活動、SHIPS活動、創作活動(勾玉作り)・ポイントラリー・キャンプファイヤーといった活動を全国から集まった仲間と共に、普段味わうことのない貴重な体験と全国各地にたくさんの友達ができ4日間でした。



- 指導者 村中 直樹(伊達シニアクラブ:伊達市)  
参加者 岩上 莉子(NNACスポーツ少年団:帯広市)  
木谷 優輝(伊達シニアインクススポーツ少年団:伊達市)  
江口 翔太(政宗ダンガンズスポーツ少年団:伊達市)  
稲葉 愛子(NNACスポーツ少年団:帯広市)  
三浦 麗市(土別空手道スポーツ少年団:土別市)  
村上 祐太(江別剣道スポーツ少年団:江別市)  
伊藤 ももこ(NNACスポーツ少年団:帯広市)  
水口 聖奈(誠心館柔道大雪山スポーツ少年団:旭川市)

参加団員の感想

4日間もいたのにあつという間でもまだ帰りたくないと思うくらい楽しかったです。同じ班の人とたくさん友達になっていっぱい遊んだ。全国各地から来た人達とたくさん仲良くなれてとても思い出になりました。行くまでが大変だったけど、楽しすぎてあつという間の4日間でした。

第39回 北海道  
スポーツ  
少年大会

今年度は8月1日~3日まで、網走管内の常呂町において開催されました。団員達は道内各地の仲間達とともに、充実した3日間を過ごすことができました。



開会式でのリーダー会会長あいさつ



「少年団とは...しっかり勉強もします」



みんな楽しみにしていたカヌー。盛り上がりました



野外炊飯お味はいかが?

団員の感想

- 3日間色々な事が学べたし色々な人と友達になってよかったです。この大会は楽しい思い出ばかりでした。(旭川神楽少年野球スポーツ少年団:宝田 光平)
- 友達が8人くらいできました。みんなでカレーを作ったり色々な体験をして思い出になりました。(網走/レーボールスポーツ少年団:加藤 志歩)
- 班のみんなと友達になってたくさんしゃべれてとても楽しかったです。いつかみんなと会えたらいいなと思います。(野幌剣道スポーツ少年団:田中 凌)

「北海道スポーツ少年大会」での運営補助 お世話係

リーダーは常に参加者のお手本でなければいけません!カヌーイカダ体験の中で真っ先にリーダーのカヌーが転覆!そんな失敗もたまにはありますよね...



このように、少年大会はもちろん、競技別交流大会や全国軟式野球交流大会、全道各地で開催されるジュニアリーダーズスクールなどで活躍しています。今年度は日中青少年交流の受入にチャレンジしました。中国の団員30名はリーダーが行なうレクリエーションに大喜び!「心の交流」を通じ、担当のリーダー達には大きな自信となったことでしょう。

入会したい方は 北海道体育協会スポーツ振興グループ (011-820-1706)まで  
リーダー会への運営補助などの依頼、入会の問い合わせ先  
Hokkaido Leader's Club 〒062-8572 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1 TEL 011-820-1706 (財)北海道体育協会スポーツ振興グループ リーダー会のアドレス http://www.hokkaido-leaders-club.com/

この大会は... 今後、少年団活動を担う中核リーダーを集め、団活動だけでなく大勢の仲間達との活動や集団生活を通して、リーダーになるための学習をするために開催しています。

第40回 北海道スポーツ少年大会の開催



22年度は釧路管内の厚沢町で開催します。道内各地の団員と交流ができる唯一の交流会です。初めて耳にした、自分の住んでいる場所から何百キロも遠い場所に住んでいる団員が、日頃どんな学校生活を送っているのか、どんな活動をしているのか、実際に参加して話をしてみるのとはとても楽しいことだと思います。今年の夏休みは、たくさんの方と思い出を作りましょう!みなさんの参加をお待ちしています。

- いつ 平成22年7月28日(水)~31日(金)2泊3日
- どこで 厚沢町阿留の森キャンプ場・厚沢町総合体育館
- 参加料 1,000円(宿泊費、往復の交通費は北海道スポーツ少年団が負担します。)

この大会は... 少年団活動を担う中核のリーダーを集め、団活動だけでなく大勢の仲間達と活動や集団生活を通して、リーダーになるための学習をするために開催しています。